



明石市議会議員

無所属 中西レオ

8月からお届けしている1人3千円（65歳以上は4千円）のギフトカード。
「金額が少ない」「使いにくい」「なぜ世帯で1枚？」などの困惑や本音のご意見が私のもとにたくさん届いています。そもそもこの事業の原資は国からの物価高騰対策の交付金。他の使い方はできなかったのか？今後も交付金があったらどうするのか？など、みんなが納得できるように一緒に考えて参りましょう。

物価高
対策

ギフトカードの評判がイマイチ？ 金額・使い勝手・選択肢不満の声

主な使い道

交付金の主な使い道は、個人・家庭向けに現金給付やポイント付与、プレミアム商品券、水道料金や学校給食の無償化、省エネ家電購入補助等があり、会社や農家、福祉施設など事業者向けにはデジタル化等の生産性向上への補助、現金交付等があります。これらの組み合わせや割合に自治体の特色が出ており、明石市の取り組みは広く薄く公平に支援という印象です。

デジタルが紙か？手法に見る自治体の特色

例えば、養父市では既に全市民に配布しているプラスチックカード（やつぶるカード）に1万5千円分のポイントを付与します。市の事業に参加することもあり、市民はカードを日常的に使っています。小野市は紙のプレミアム商品券（プレミアム50%）を発行し、加古川市は全市民に5千円のデジタルクーポン（Amazon、PayPay、楽天ポイント等13種類のキャッシュレスポイント）もしくはカタログギフトを送ります。市民の使い勝手や必要費用、市内での消費等を考えたとき、私たちの明石市で最適な方法は何か、皆さんと考えたいテーマです。

一律給付しない、神戸市の選択

今回の交付金は市民向けの給付や商品券以外にも使えます。神戸市は「高校・大学等の学食補助」や「児童養護施設退所者へ食料品等の提供」等に使っており、他市で予算の中の割合が大きい一律給付はありません。

一時的な給付から「未来に残る仕組み」へ

中西レオは交付金を一時的なバラマキに使うよりも、後に残る仕組みにしたいと考えています。例えば高齢者がバスに乗る際に使う「敬老優待パス」のICカードやQRコード化です。今は紙の敬老バスを運転手に見せ、現金120円（ICカードは使えない）を払う必要があり、荷物や杖を持ちながら小銭を握りしめて降車するのは転倒の恐れがあるし、現金がないときには両替などで時間がかかってプレッシャーがかかります。意見があります。交付金はバス事業者のデジタル化にも活用できますので、これが実現すれば高齢者の外出支援&バス利用者拡大で路線バスの維持に繋がることが期待されます。まさに意義のある支出と呼べるでしょう。

